

# ウエイトリフティング

18回連続得点記録達成!

成年2名、少年2名が得点の大活躍!!



会長 水口善造 理事長 宇野達也 強化部長 菊妻康司



## 【少年】

奈良県ウエイトリフティング競技選手団 (会場にて)

55kg級蔵之上 (奈良朱雀3年) は今年3月の全国選抜大会4位入賞の実績を持つホープであり、夏のインターハイが期待されたが、減量からくる体調不良により失格。今大会はその雪辱を果たすべく大会前から慎重な減量を行っていた。スナッチ1、2試技目、軽いはずの81kgを緊張感から失敗。3試技目は連続試技を避けての82kgに挑むが、惜しくも失敗、スナッチは記録なしとなった。仕切り直しのジャーク1試技目、軽めの100kgを難なく成功。久しぶりの成功試技であった。そして2試技目104kgも成功させ、入賞を確定させる。最終試技の109kgはクリーンで失敗したが、混戦の中の6位入賞は価値のあるものとなった。

以上、同選手の3年次は決して結果には恵まれたとは言えない。しかし大学進学後も競技を続けることが決まっており、肉体的な素質に強靱なメンタルを宿らせた全国一流の選手に成長してくれることを期待する。



蔵之上選手、6位入賞を決めたジャーク

**67kg級西尾**（奈良朱雀3年）は先述の蔵之上の日頃の練習相手であり、明るく練習熱心なことから着実に記録を伸ばし続けている。特にインターハイ以後は上り調子であった

スナッチ1、2試技目の88kgは緊張感からキャッチのタイミングが合わず失敗する。そして連続試技回避と入賞をかけた3試技目93kgに挑戦するが、惜しくも失敗して記録なしとなった。気を取り直してのジャークは1試技目の110kgを難なく成功。そして入賞を狙った2試技目の114kgも成功させる。3試技目はさらに上位を狙って自己新記録の116kgに挑戦。軽いクリーンをするが、差し上げで惜しくも失敗した。（114kg、7位）同選手はインターハイでは振るわなかったが、今回初の国体を全国7位入賞を勝ち取った事は十分な評価に値する。また大学進学も決めており、将来が矚望される逸材である。



西尾選手、初の全国入賞を決めたジャーク

**73kg級堀口**（樺生昇陽2年）は夏のインターハイ出場以来順調な調整を見せていた。しかし大会直前に体調を崩し出場すら危ぶまれる状態であった。

スナッチ1試技目、余裕を持たせたスタートで90kgを成功させる。2試技目の95kgはバランスを崩したが、3試技目には見事成功させた。（13位）

ジャークも1試技目の100kgを危なげなく成功させる。2試技目は10kgアップの110kgに挑み、こちらも成功。3試技目は自己新記録の115kgに挑戦するが、クリーン動作で後方にバランスを崩してしまった。（110kg、16位）

結果として大会前の体調不良を感じさせない4試技の成功であり、試合度胸抜群で緊張の中でも動じずに本来の力を発揮できる点は評価に値する。最高学年を迎える来年度、全国入賞の期待がますます高まる選手である。



堀口選手、安定したスナッチ95kg

## 【成年】

**55kg級木村**（天理大学2年）は、高校2年次以来、2回目の選出となった。大学に進学後も積極的に練習に取り組み、4月には全日本選手権にも出場している伸び盛りの選手である。

試合はスナッチ1試技目92kgを難なく成功させ、2試技目の95kgも成功したかに見えた。しかしブザーが鳴る前に降ろしてしまい、失敗の判定。気を取り直しての3試技目を96kgに上げて挑戦し、見事成功させた。（6位入賞）

得意のジャークでも1試技目の122kg、2試技目の125kgを連続成功させる。そして上位入賞をかけた3試技目、自己新記録の128kgも抜群の集中力で成功させた。（4位）

肉体的には脚力、特にスクワットの強さに抜きん出たものがあり、メンタル面ではここ一本にかける集中力に非凡なものを感じる選手である。特にジャークについては全国トップクラスに成長した。順調に力をつければ、ここ2、3年のうちで間違いなく日本を代表する選手になれる逸材である。



木村選手、力感溢れるジャーク128kg

**61kg級森田幸司**（株式会社丸産業）は沖縄出身であり、勤務の関係で昨年度より奈良県登録している。

同選手は昨年度、全日本選手権61kg級で準優勝した実力の持ち主であり、一般企業に勤めながら2年後のパリオリンピック出場を目指しているトップアスリートである。また、奈良県からは国体初出場であるが、五輪の候補選手になるため全国大会での優勝を勝ち取れることを目標に今大会に臨んでいた。

得意のスナッチ1試技目、スタート重量トップの118kgから出場したが、引き上げのタイミングが合わずに失敗。2試技目も同重量に挑戦するが、後方にバランスを崩して失敗。3試技目の同重量挑戦も前方に落とし失敗する。

気を取り直してジャーク1試技目、141kgからスタートし、無難に成功。2試技目は143kgに挑戦するが差し挙げ動作で惜しくも失敗する。そして3試技目、同重量に再び挑戦するが、クリーンの立ち上がり動作で失敗した。（141kg、4位入賞）

惜しまれることは、軽量級の宿命である減量はのり超えたが、体力維持ができなかった。また本人のモチベーションは誰よりも高いものを感じたが、トップアスリートならではのほんの少しの調整ミスが明暗を分けた。いずれにせよ来年度はオリンピックを目指し、再挑戦の年にしてもらいたい。今後、奈良県協会としても全面的にバックアップしていくべき選手である。



森田幸司選手、見事なジャーク141kg！



森田幸司選手、堂々のジャーク4位入賞！

**81kg級箕**（片桐中学校教員）は学生時代を含め4回連続の選出である。同選手は社会人1年目ではあり、近畿ブロック大会でも得意のスナッチで奈良県新記録の130kgを成功させ、勢いに乗っての大会本番となった。

1試技目123kgから出たが引き寄せが足らず惜しくも失敗。気を取り直した2試技目もバランスを後ろに崩して失敗。そして3試技目、入賞を勝ち取るため、5kg増加させた128kgに挑戦する。このままでは中学校の教え子に報告ができないと不返転の

集中力を見せた結果、見事成功。入賞まであと1kgであった。(128kg、9位)

ジャーク1試技目は150kgからスタートし難なく成功。2試技目は156kgに挑戦するが、差し上げ動作で重心が前に傾き失敗。3試技目は入賞への期待も含め、161kgに挑戦するが、クリーンできずに失敗となった。(150kg、12位)

今後、まだまだ伸びしろのある選手である故、練習できる環境作りが最も重要であろう。また指導者として活躍してほしい選手である。



興選手、見事起死回生のスナッチ3本目！

96kg級森田啓介(奈良県スポーツ協会)も4回連続出場である。専門スポーツ指導員としても4年目を迎え、指導も含めた練習も充実していた。しかし、昨年練習中に痛めた両手首の回復に時間を要したため、種目練習が十分にできず、本番まで手首を温存しての参加となった。

スナッチ1試技目、115kgからスタートし難なく成功。2試技目の120kgも危なげなく成功する。そして最終試技、今季自己記録の126kgに挑戦するが失敗。(120kg、16位)

そして得意のジャークである。1試技目の160kgは手首痛からクリーンの返しに不安があったが、クリーンではなく差し上げ動作でバランスを崩して失敗。しかし同重量に挑戦した2試技目は見事に成功させる。そして3試技目、入賞を狙った167kgに挑戦するが、クリーン動作での手首の返しができずに失敗した。(160kg、12位)

結果として、今大会は怪我が泣かされた大会であり、

3年前の茨城大会5位入賞を上回る働きはできなかった。また後日、大会期間中に虫垂炎に罹患していたことが申明しており、その中で競技結果を残した点はキャプテンとしての責任感の賜であろう。早期の体調の回復と競技の復活を望みたい。



森田啓介選手、痛みに対えて懸命のジャーク

## 【大会を終えて】

今大会は鹿児島、三重大会が中止となったことから3大会ぶりの参加となった。しかしこの間、奈良県チームとしては全国のトップ選手である、男子の森田幸司選手、女子の高橋いぶき選手が参入し、合同練習会でもその取り組む姿勢やメンタル面で、社会人や高校生にまで良い影響を与えてくれた。結果、近畿ブロック大会でも3位をキープし、好調の中での本大会参加であった。唯一、佐野(金沢学院4年)の近畿ブロック大会前の怪我が悔やまれる。また少年についてもインターハイ出場者3名を加え、過去最高得点更新の期待もかかる大会であった。

本大会については、少年の蔵之上(奈良朱雀3年)、西尾(奈良朱雀3年)がインターハイの雪辱を果たし、ジャークで6位と7位入賞を果たしてくれた。しかしスナッチは両者とも緊張感から失格し、取りこぼしがあった。成年では新加入の森田幸司選手がジャークでは4位入賞するが、得意のスナッチで失格する。全国トップのスタート記録であった故、悔やまれる。実力ある選手だけに、メンタル面の立て直しに期待する。

また、木村龍一（天理大2年）の活躍が特筆される。同選手はスナッチ、ジャーク共にバランスがとれている。そして脚力の強さと強い希なる集中力から大試合で成功体験を重ねており、今後は日本はおろか世界に挑戦していく可能性を感じる。順調に伸びていくことを期待するばかりである。

来年以降の期待できる選手については、成年では上述の森田幸司（株式会社丸産業）、木村龍一（天理大2年）をはじめ、巽（片桐中学教員）も見逃せない。社会人選手は練習環境の確保が課題であるが、モチベーションを維持しながら、記録の向上を目指して精進してもらいたい。また、川嶋（天理大学2年）も記録を伸ばしており、関西選手権96kg級で優勝している。同大学は部員も増え（現在11名）、今後期待ができる勢いである。そして来年度からは昨年度全日本選手権覇者の女子の高橋選手が奈良県で出場することが決定しており、得点も大いに期待できる。

少年でも明るい兆しが見える。奈良朱雀の藏之上と西尾は大学生となるが、堀口（練生昇陽・宇陀高校2年）は順調に記録を伸ばし、1月の近畿選抜大会では優勝し、最高学年の来年は十分入賞を狙える選手に成長した。また同校は12月に練習場が新築され、来年度の新人部員も大いに期待できる。奈良商工、奈良南も勧誘を最重点項目にしており、今後に期待する。

以上2031年の奈良スポーツ大会に向けたプロジェクトも動き始めており、選手強化、運営委員確保等、課題は多いですが、スポーツ振興課ともども前向きに頑張っていく所存であります。

最後に選手・当協会に対し温かいご支援を賜りました県スポーツ協会の皆様はじめ関係各位に深謝申し上げます。  
（文責・編集 宇野達也）

## 選手団名簿

《監督》



宇野達也  
《成年男子》

《コーチ》



菊妻康司

《コーチ》



水口啓嗣



55kg級  
木村龍一



61kg級  
森田幸司



81kg級  
巽悠



96kg級  
森田啓介

## 《少年男子》



55kg級  
藏之上 大雅



67kg級  
西尾 銀矢



73kg級  
堀口 実篤